

統計からみた 安八町 の現状

総面積km ²	割合%	順位
18.16	0.17	37

※割合：県全体に占める割合



岐阜県 統計課
2025年10月更新

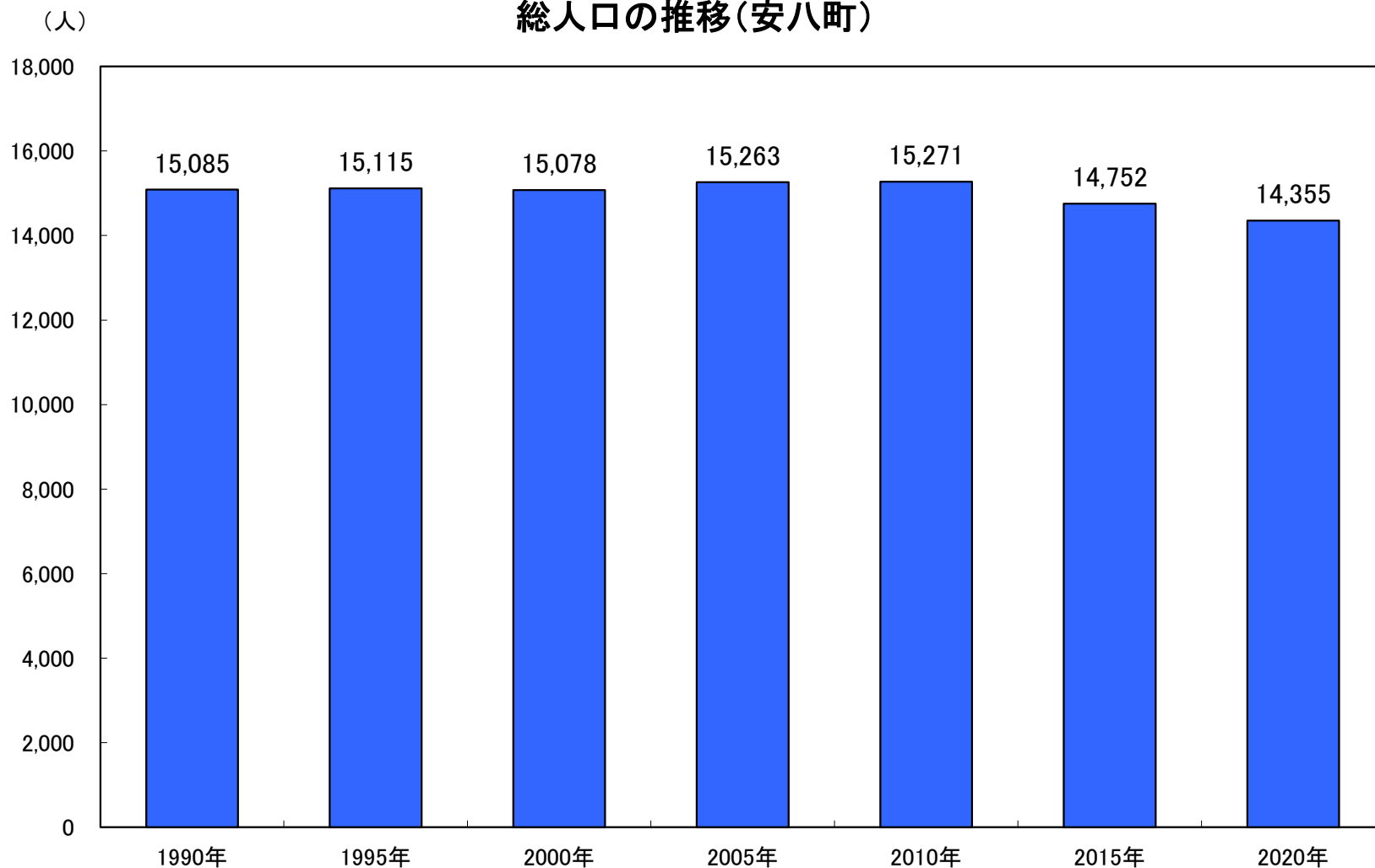
安八町の人口は2015年頃から減少している

2010年：15,271人 → 2015年：14,752人（△519人）

2015年：14,752人 → 2020年：14,355人（△397人）

人口順位：県内32位 県人口に占める割合：0.7%（1990年）→0.7%（2020年）

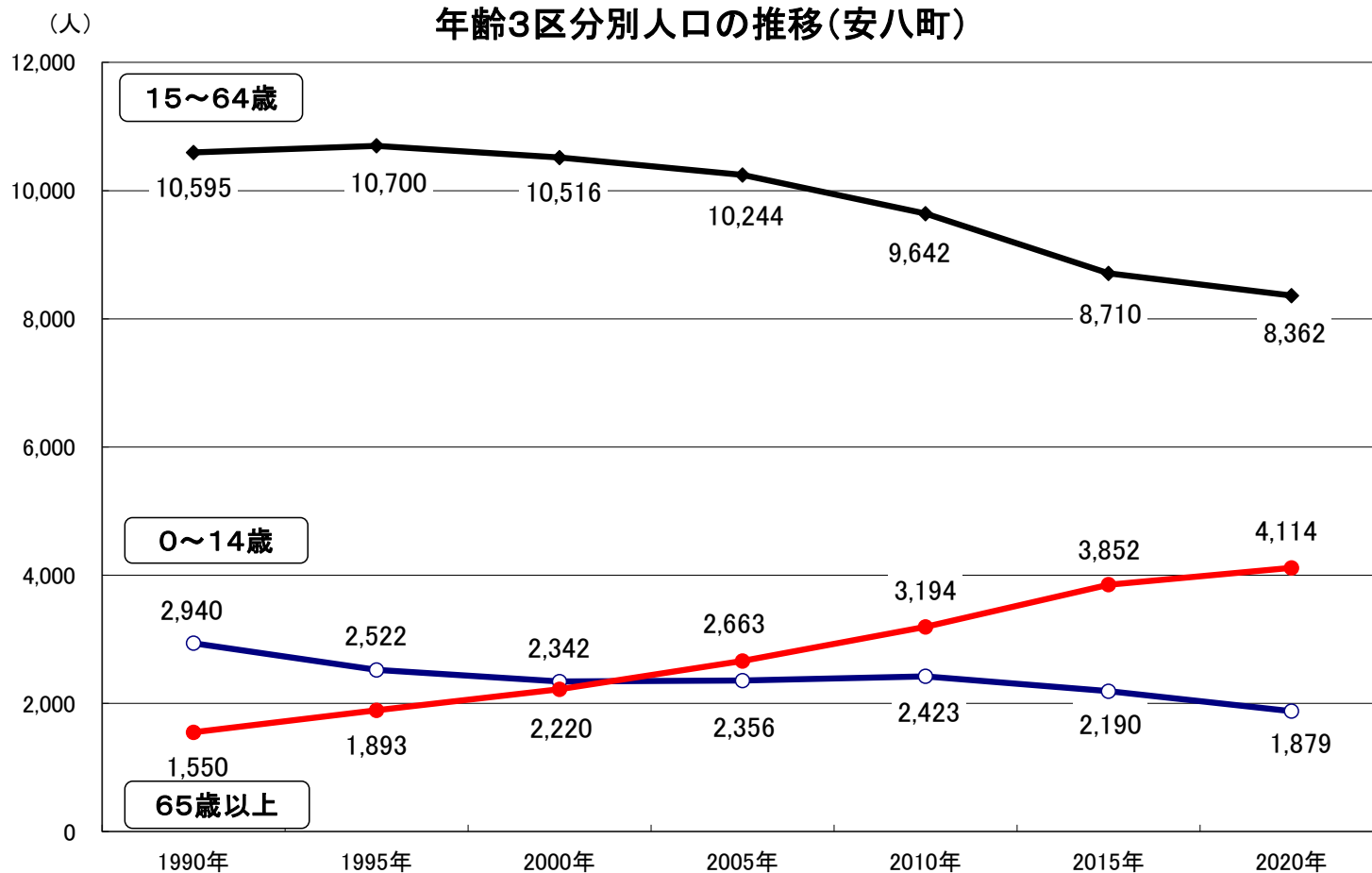
総人口の推移(安八町)



0～14歳の子どもが減り続ける一方、65歳以上の高齢者は増加 15～64歳人口は2000年頃から減少が続く

人口の 増減数	2010→ 2015年	2015→ 2020年
0～14歳	△ 233	△ 311
15～64歳	△ 932	△ 348
65歳以上	658	262

	年齢3区分別人口の割合 (2020年)		
	安八町	岐阜県	県内順位
0～14歳	13.1%	12.3%	8位
15～64歳	58.3%	57.3%	13位
65歳以上	28.7%	30.4%	31位



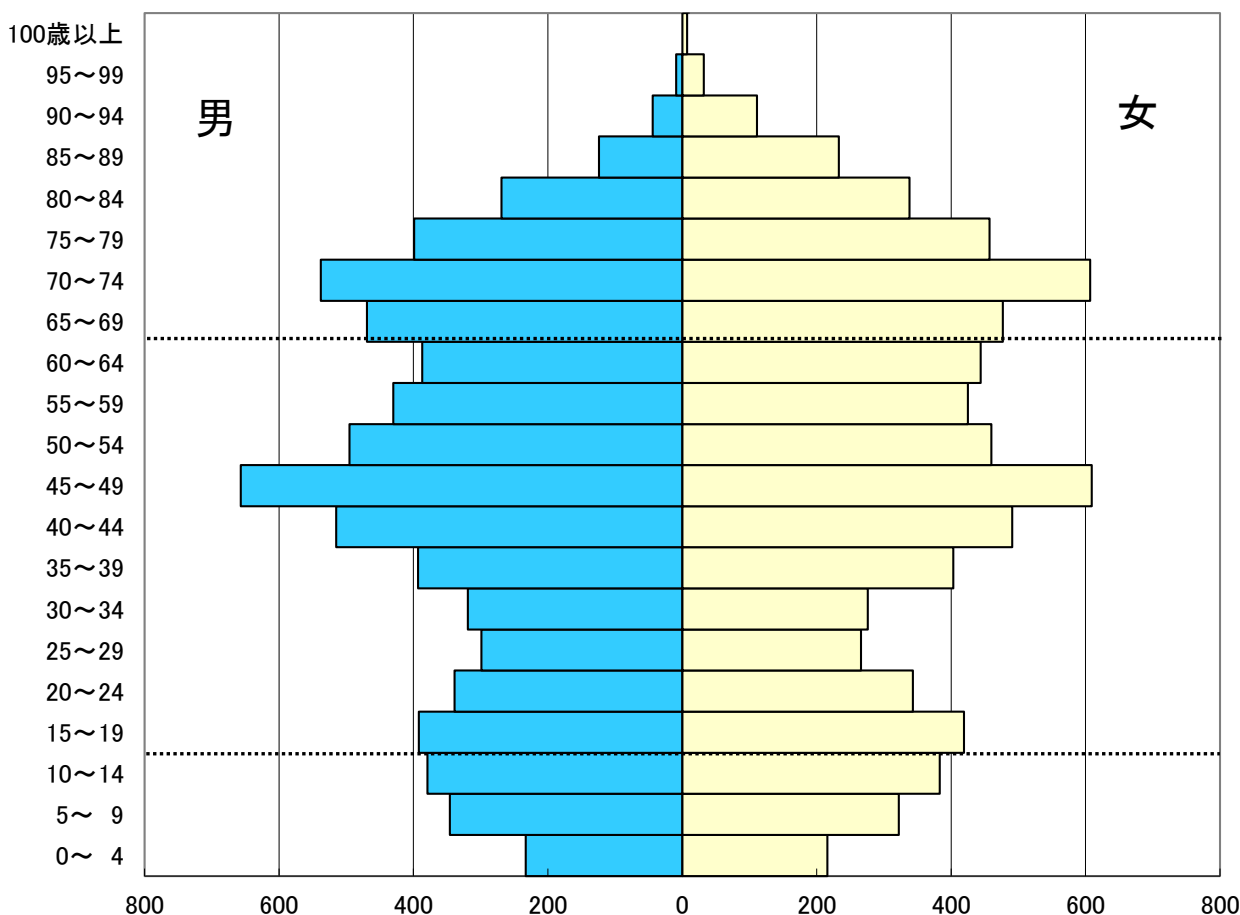
団塊世代と団塊ジュニア世代が多い人口構造

0～14歳人口が総人口に占める割合は、県内8位と高い方。

団塊の世代が65歳以上となり、65歳以上人口は増加した。

人口に占める65歳以上人口の割合 1990年：10.3 %（35位）→ 2020年：28.7%（31位）

2020年人口ピラミッド(安八町)



	人口(人)	構成比(%)
総人口	14,355	100.0
0～14歳	1,879	13.1
15～64歳	8,362	58.3
65歳以上	4,114	28.7

<岐阜県全体の人口構成>

- ・0～14歳：12.3%
- ・15～64歳：57.3%
- ・65歳以上：30.4%

<構成比の県内順位>

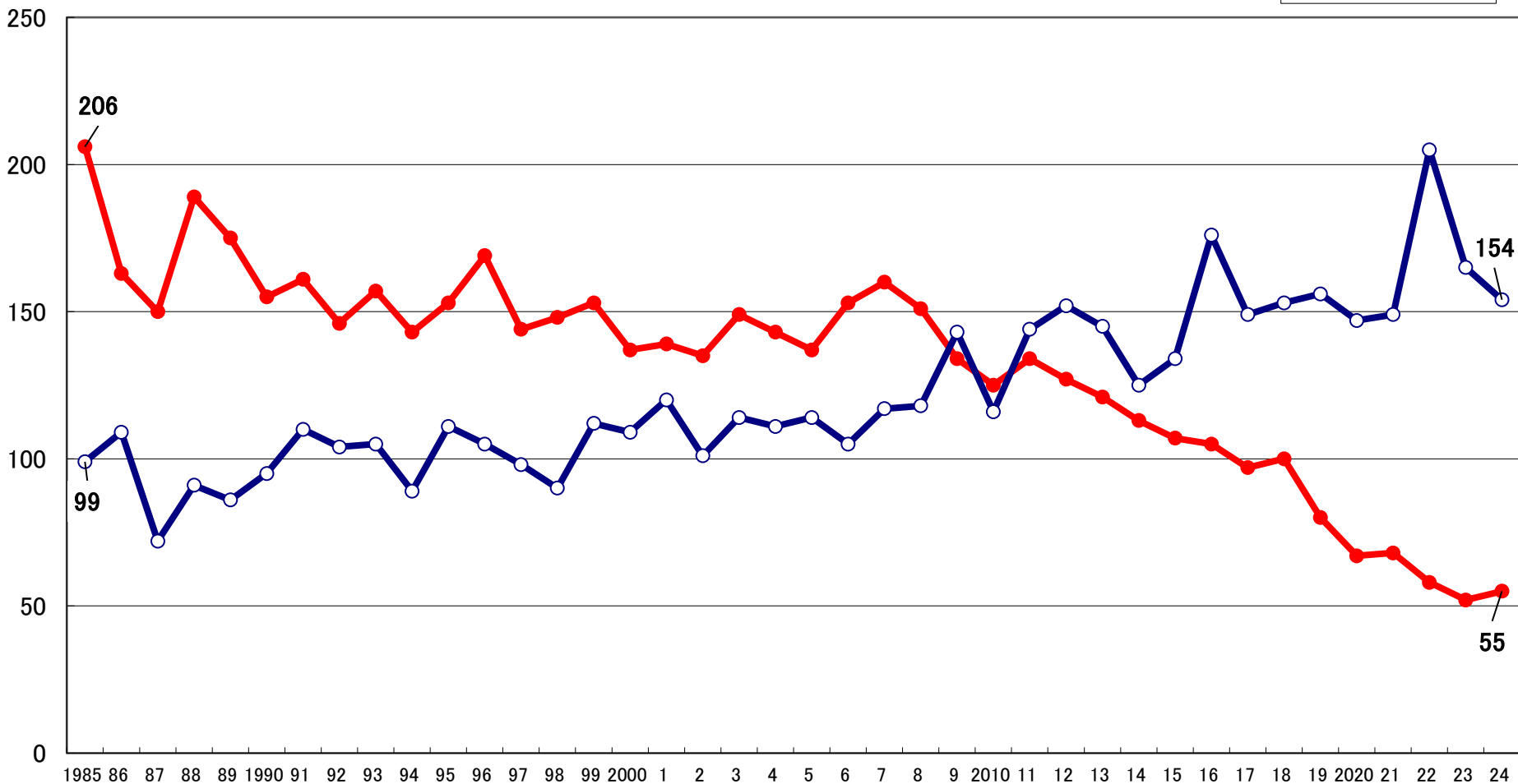
- ・0～14歳人口：8位
 - ・15～64歳人口：13位
 - ・65歳以上人口：31位
- ※数値の大きい順

出生数が減少する一方、死亡数が増加 2011年以降、死亡数が出生数を上回る自然減少が続く

2024年の自然動態：出生数55人 死亡数154人 99人の自然減少

出生数・死亡数の推移（安八町）

（人）



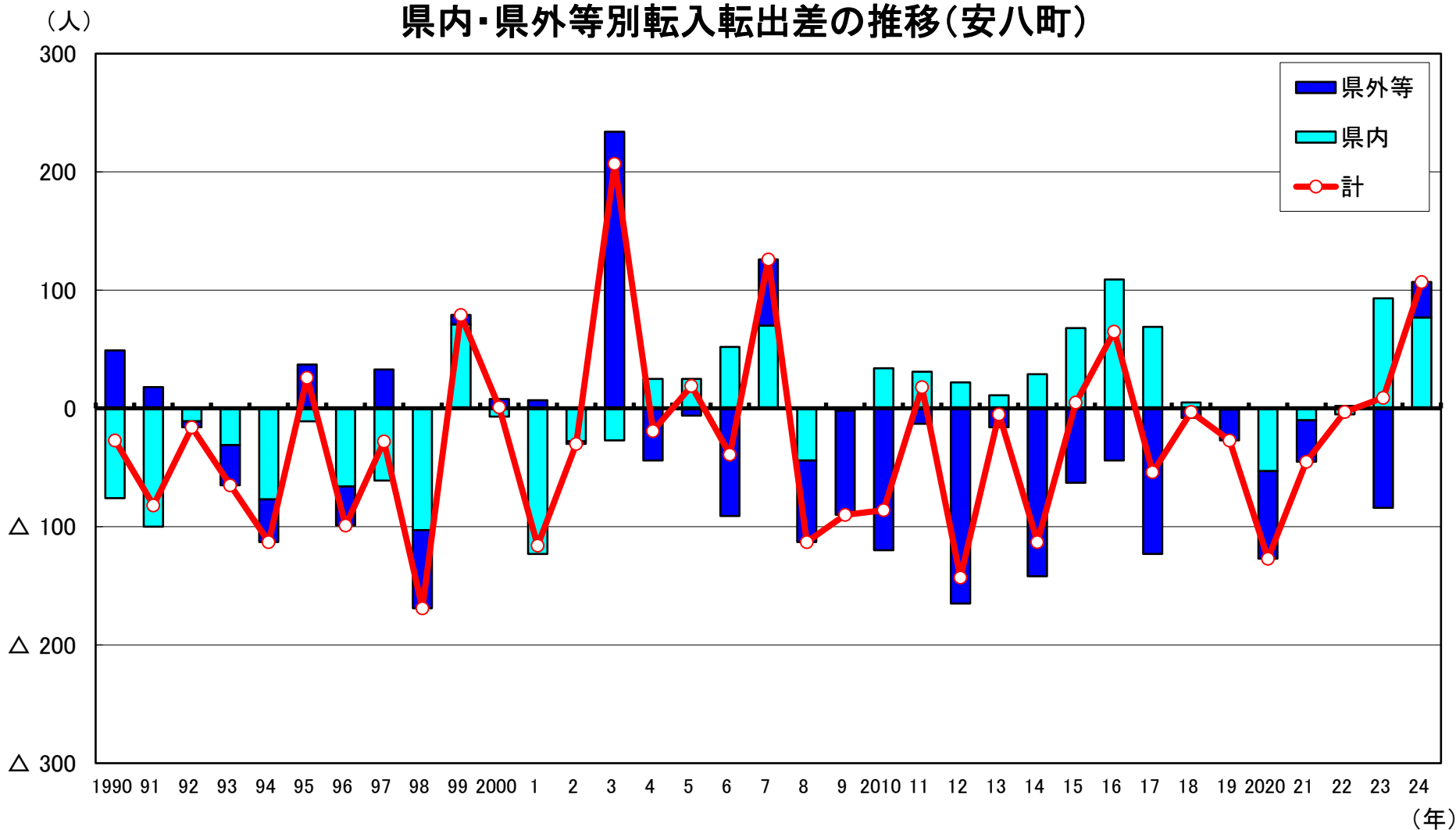
出典：厚生労働省「人口動態統計」（日本人 1～12月の年計）

（年）

2008年以降、県外を中心に転出超過の傾向

2024年の社会動態：転入 647人 転出 540人 107人の転入超過

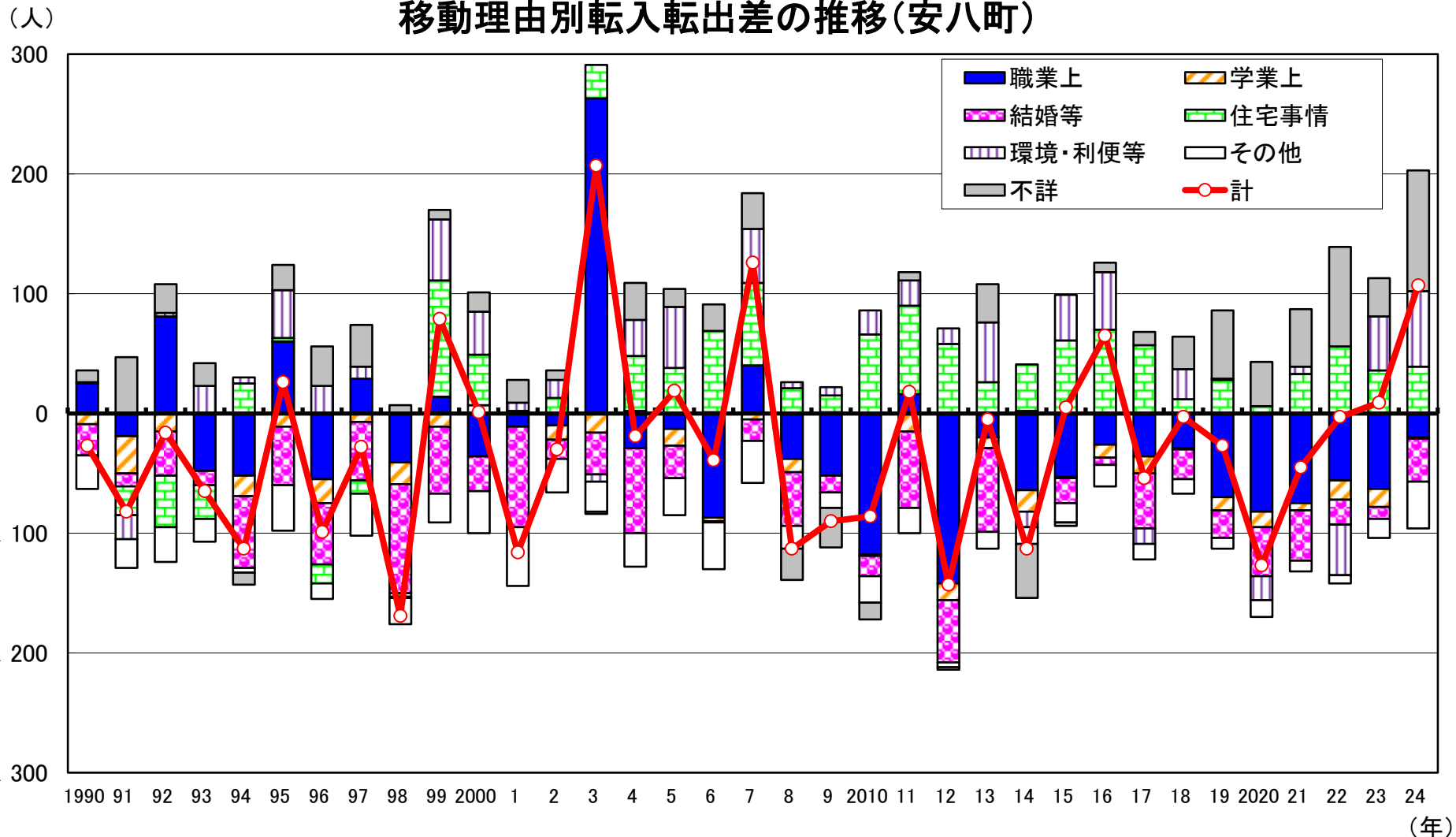
県内・県外等別転入転出差の推移(安八町)



出典: 岐阜県「岐阜県人口動態統計調査」 ※計、県外等には職権記載等を含む。 ※転入転出数は前年10月1日～同年9月30日の合計

住宅事情を理由としての転入超過が見られる 職業上、結婚等を理由とした転出超過が続く

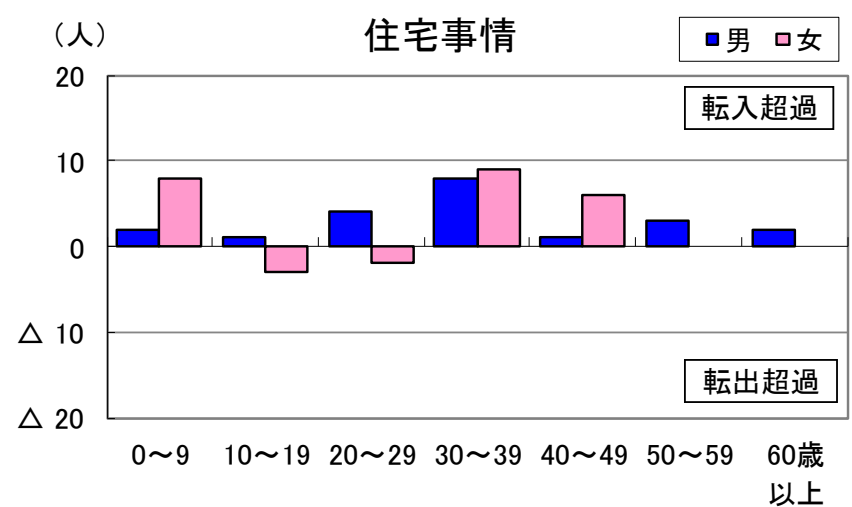
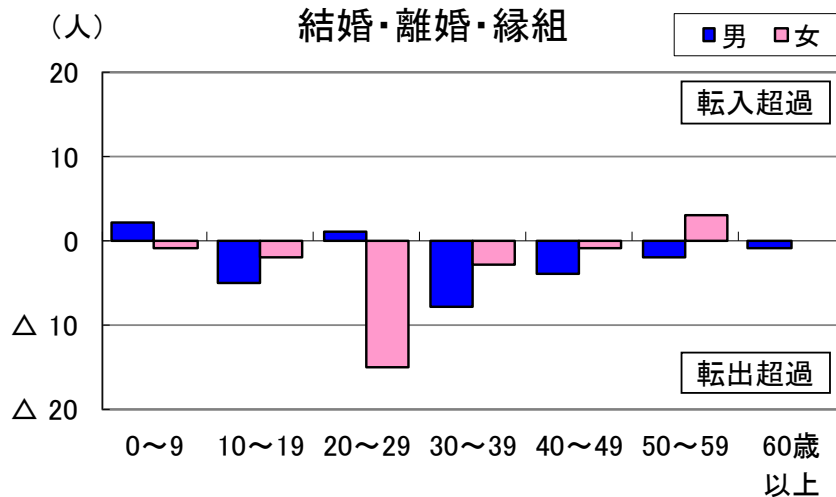
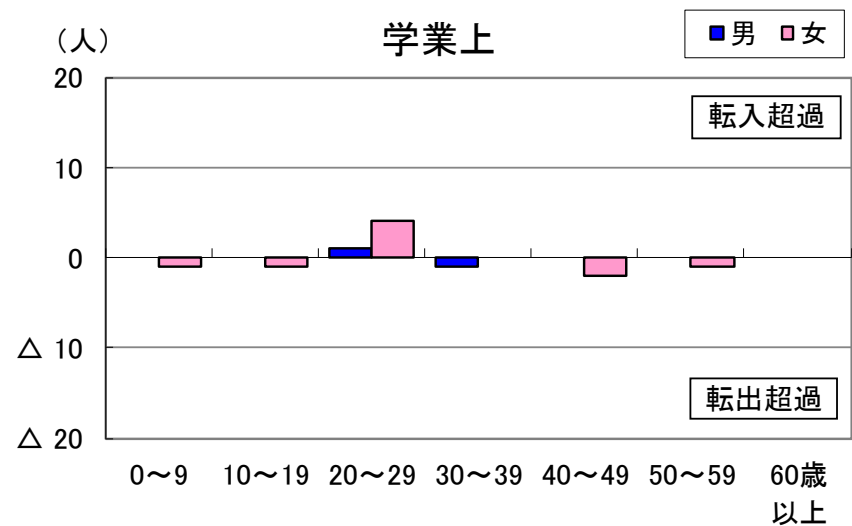
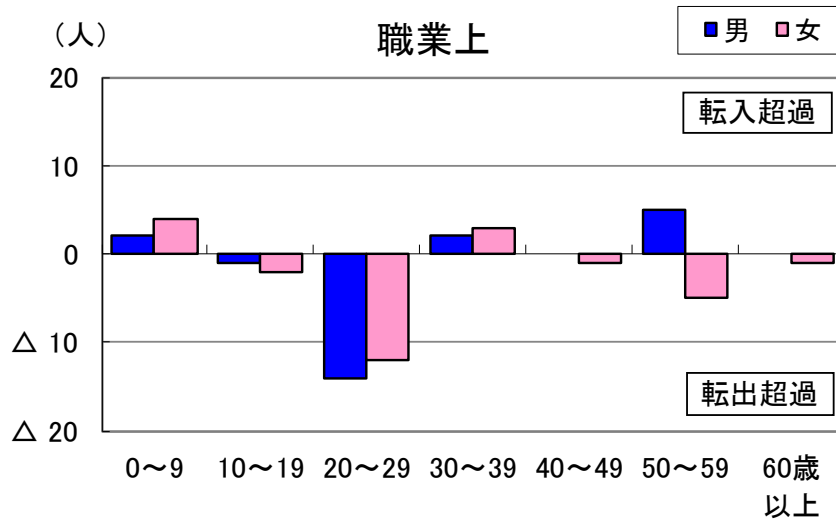
移動理由別転入転出差の推移(安八町)



出典: 岐阜県「岐阜県人口動態統計調査」「岐阜県転入転出理由実態調査」(不詳＝外国人＋職権、環境・利便等＝生活環境の利便＋自然環境＋交通の利便)

職業上、結婚等を理由とした20代の転出超過が多い 住宅事情を理由とした転入超過も多い

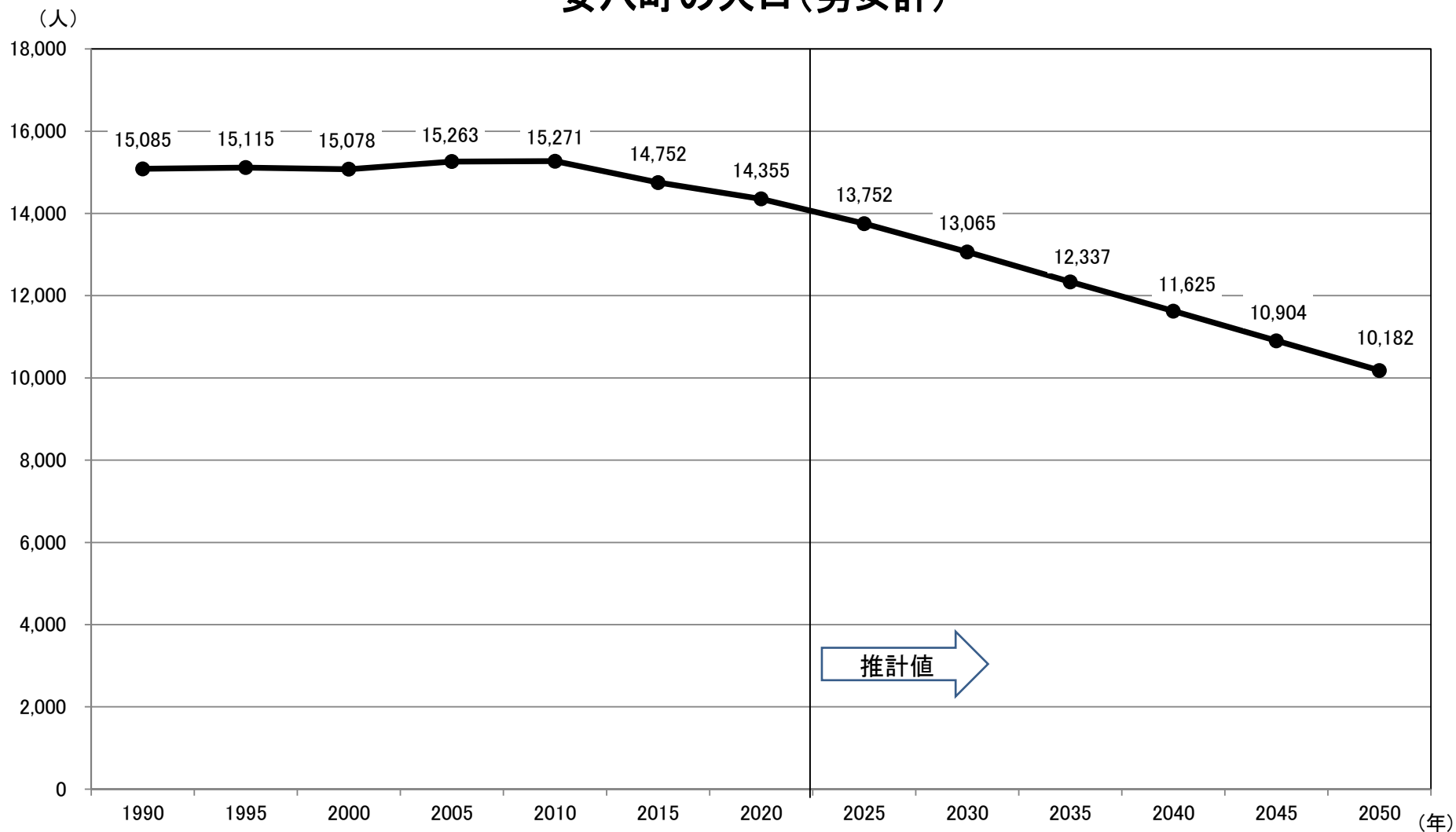
主な移動理由でみた世代別日本人の社会動態(安八町 2024年)



参考：将来の人口の見通し（総人口の推移）

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」

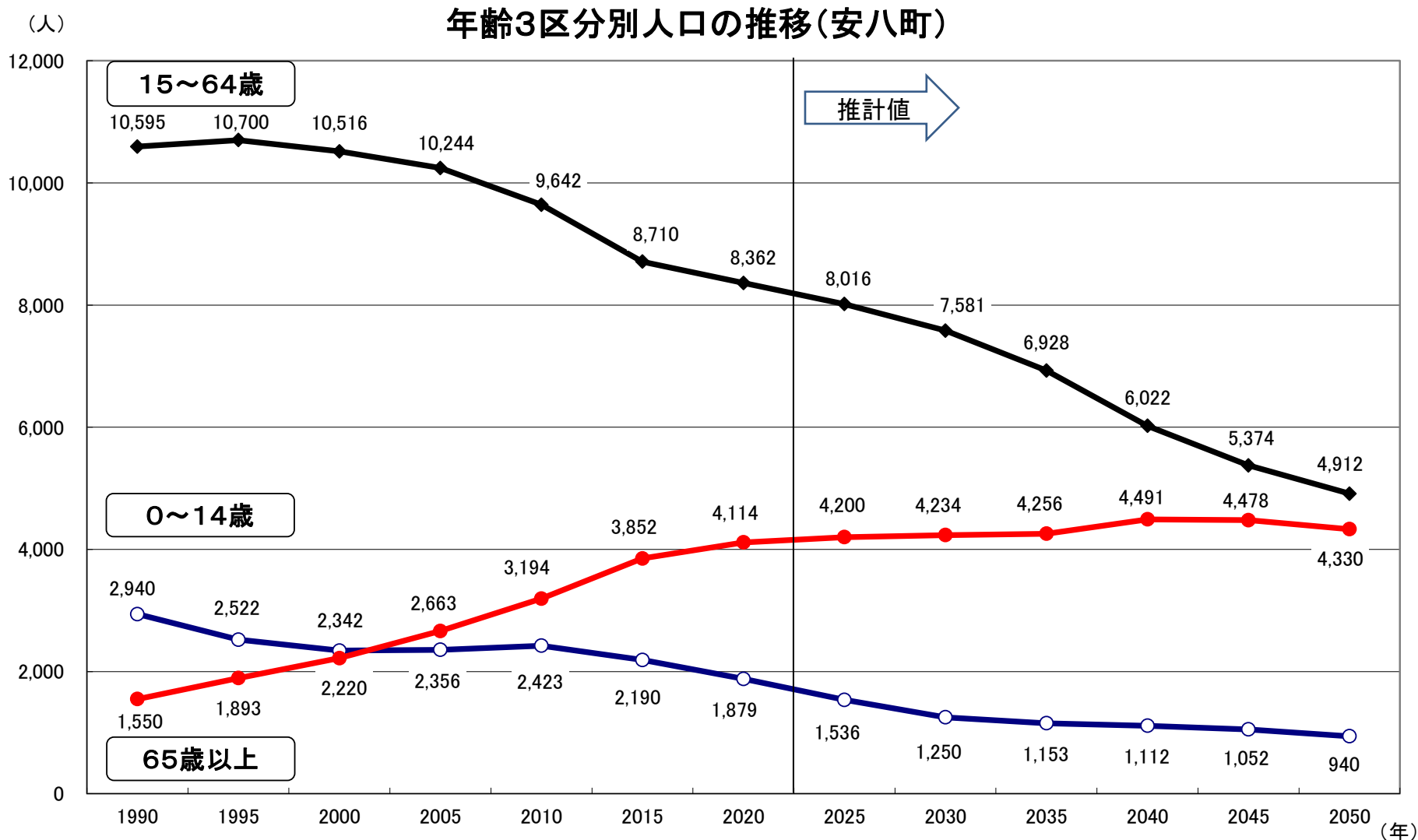
安八町の人口(男女計)



出典：総務省「国勢調査」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」

参考：将来の人口の見通し（年齢3区分別人口の推移）

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」



出典：総務省「国勢調査」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」

注：2015年、2020年の年齢3区分別人口は、不詳補完値。

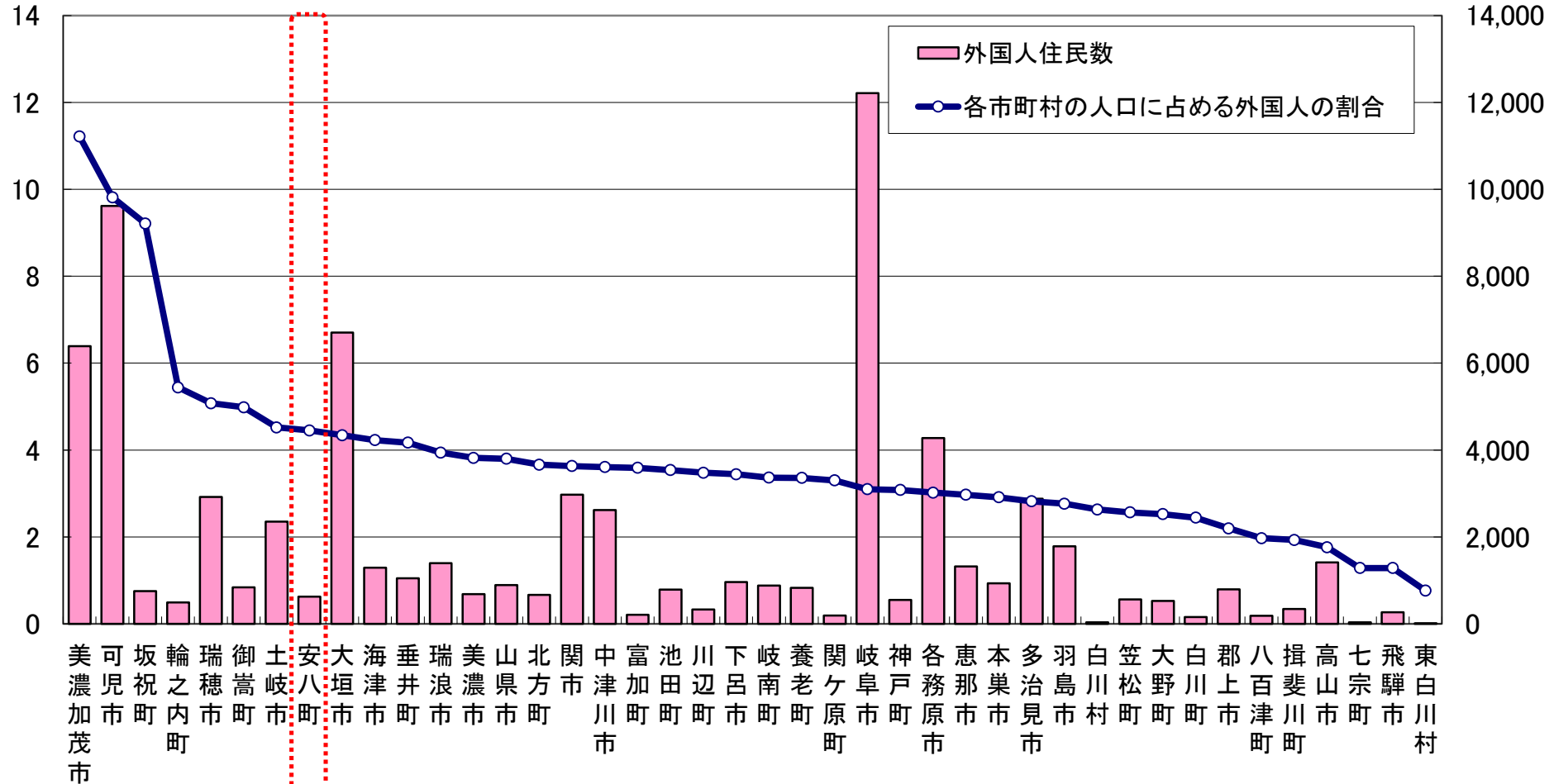
人口に占める外国人の割合は4.5%（県内8位）

岐阜県の外国人住民数74,750人のうち、安八町の外国人住民数（624人）は0.8%を占める

外国人住民数と各市町村の推計人口に占める割合（2024年12月末現在）

外国人住民数
(人)

割合
(%)



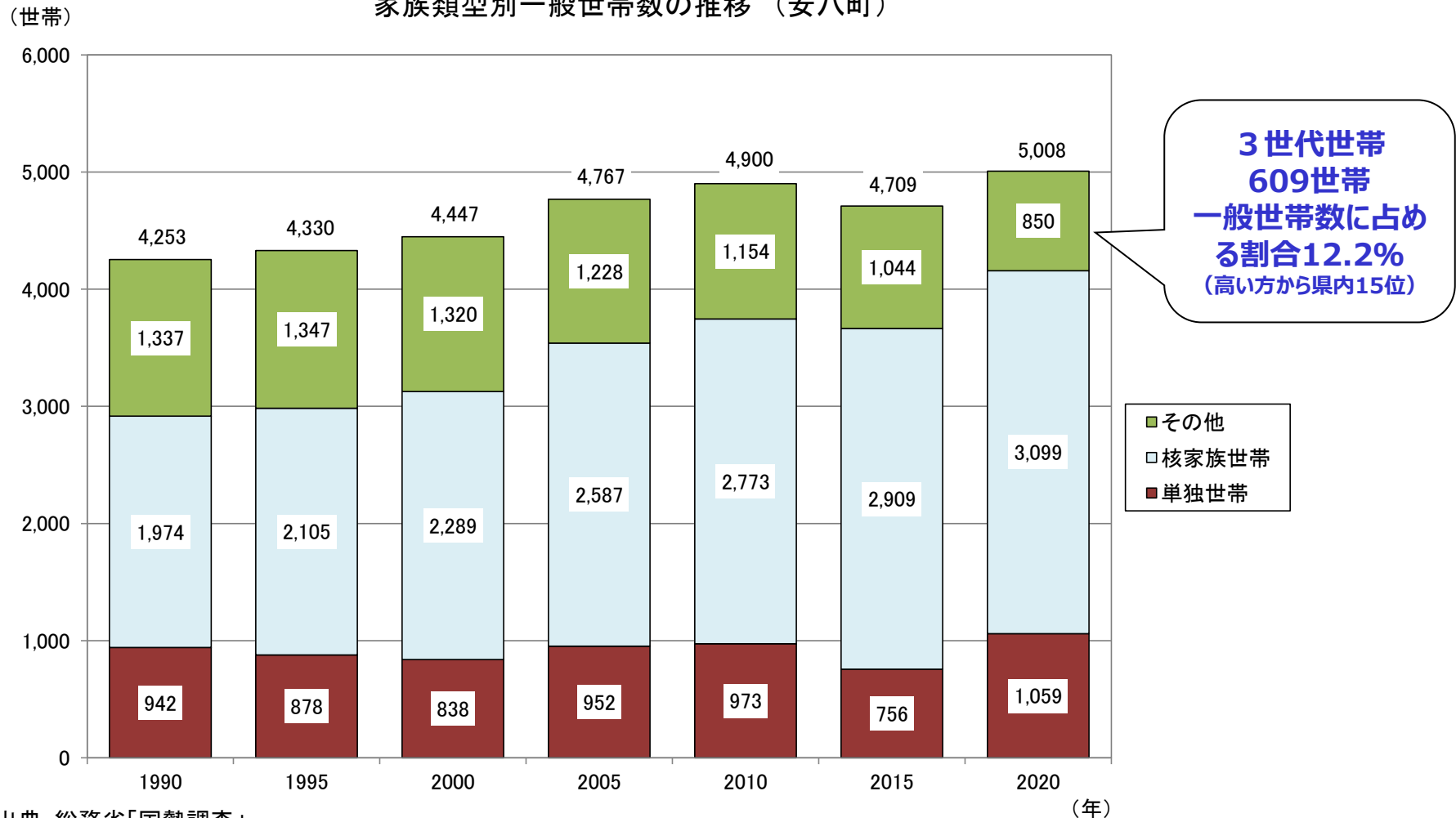
出典：法務省出入国在留管理庁「在留外国人統計（2024年12月末現在）」、割合は岐阜県「人口動態統計調査」による推計人口（2025年1月1日現在）により算出。

一般世帯数は増加傾向にある一方、1世帯当たり人員は減少 核家族世帯が増加している

単独世帯は1990年以降の30年間で1.1倍に。

1世帯当たり人員数：3.09人（2010年）→2.83人（2020年 県内2位）

家族類型別一般世帯数の推移（安八町）

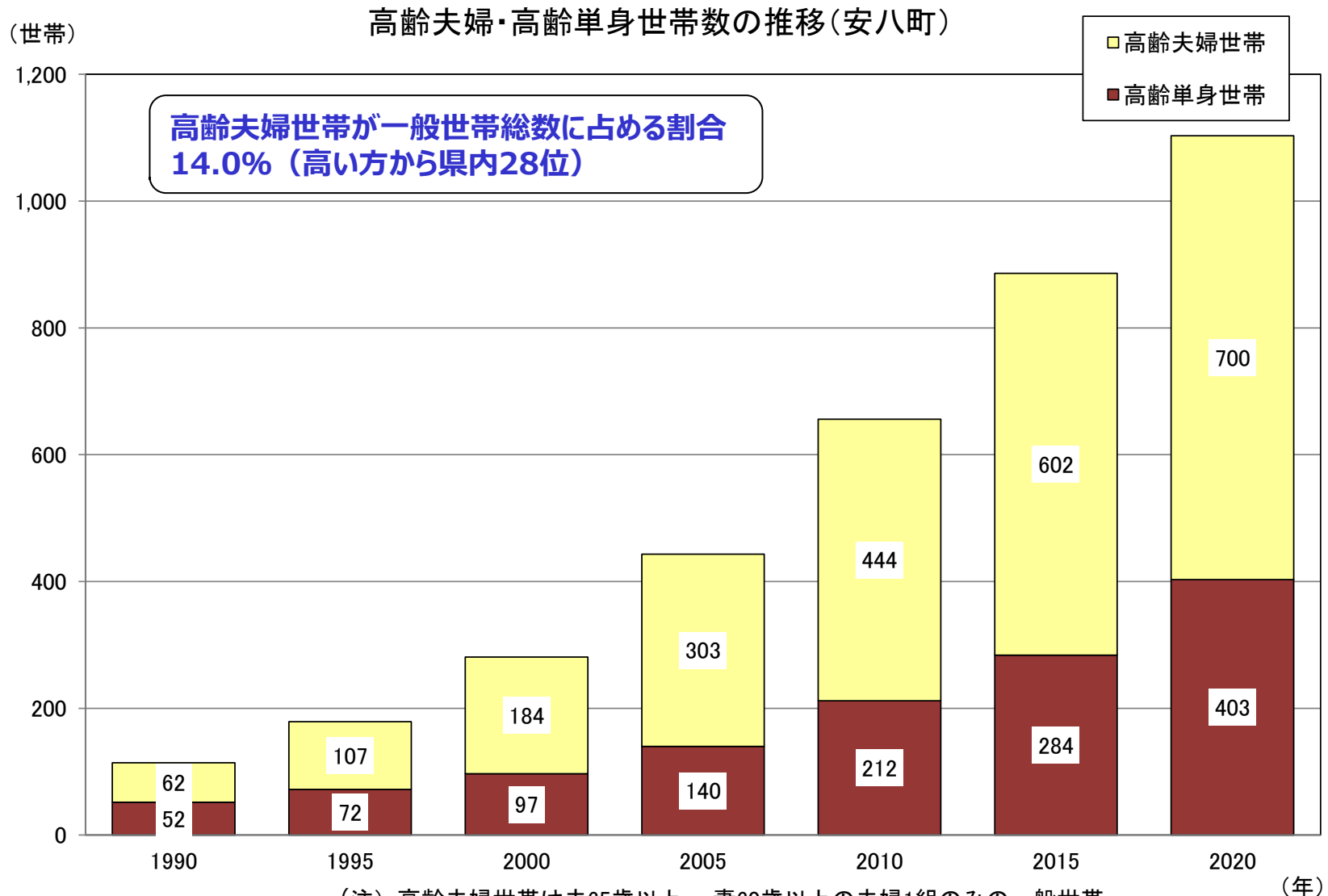


出典：総務省「国勢調査」

注：一般世帯は、病院、社会福祉施設などで生活する人を除いたもの。

高齢夫婦世帯や高齢単身世帯が大きく増加

1990年以降の30年間で高齢夫婦世帯は11.3倍に、高齢単身世帯は7.8倍に増加。



(注)・高年齢夫婦世帯は夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯

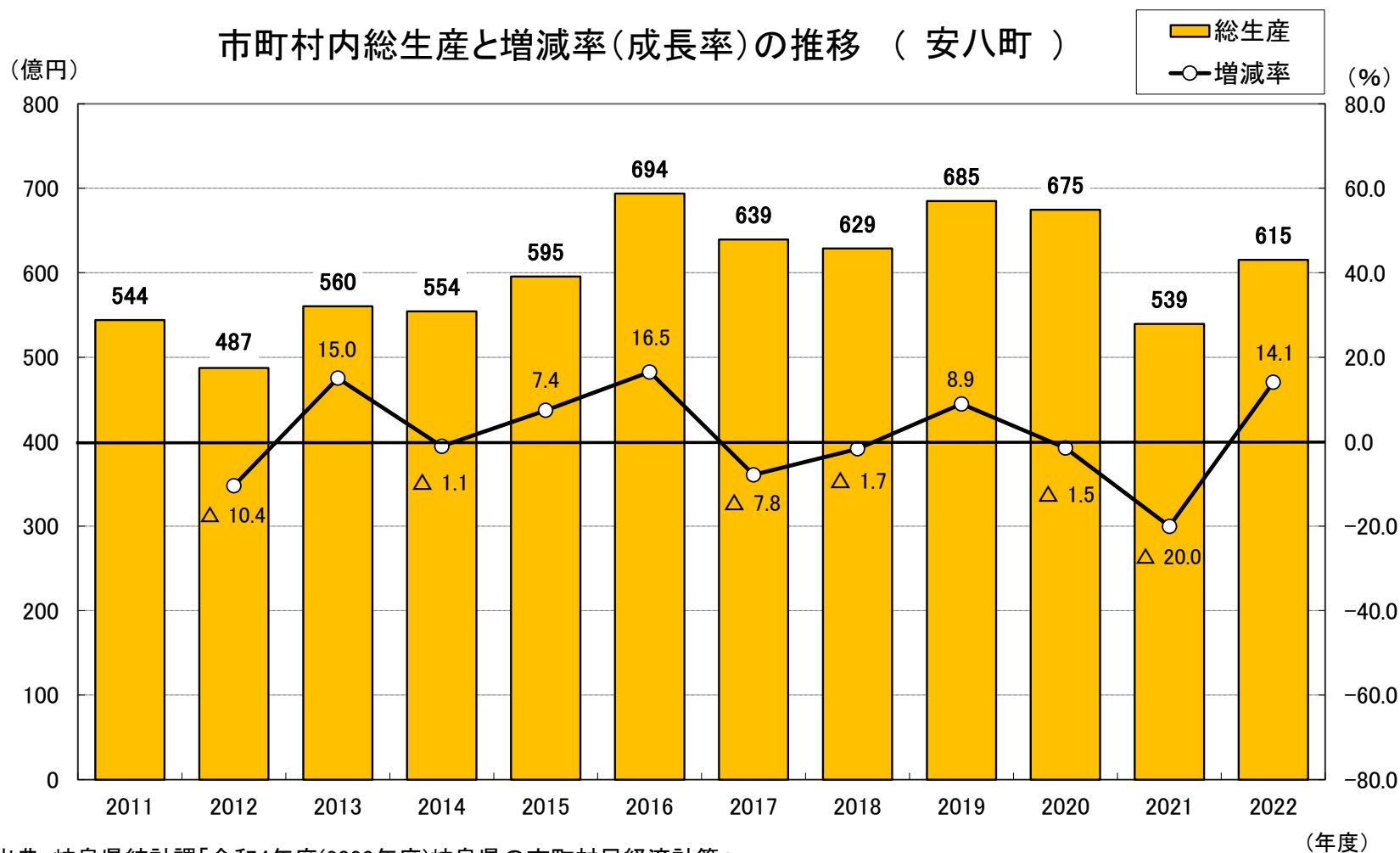
・高年齢単身世帯は65歳以上の人一人のみの一般世帯

安八町の総生産は615億円 1人当たり市町村民所得は318万1千円

総生産は県（名目8兆2252億円）の0.7%、県内31位

1人当たり市町村民所得は県（319万2千円）の99.7%、県内18位

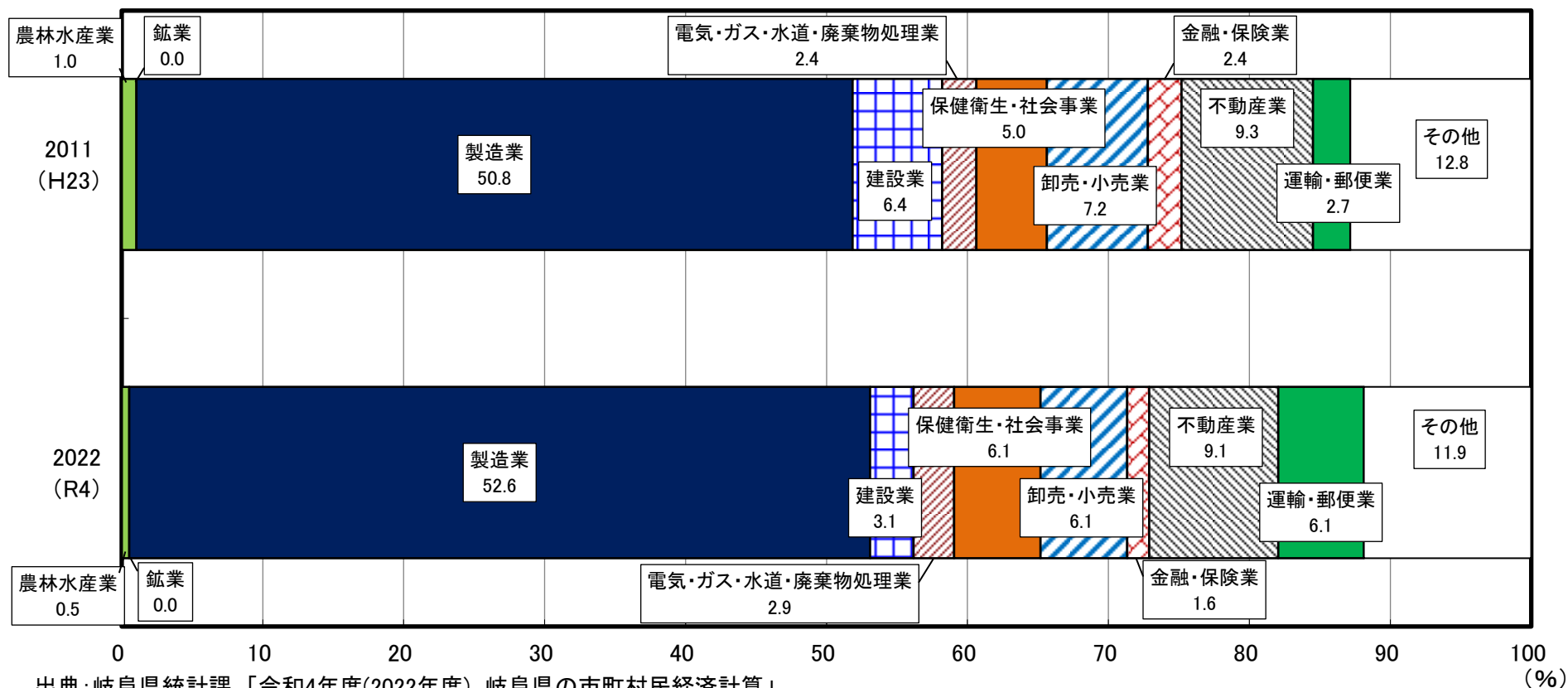
※ 1人当たり所得には企業所得等を含み、市町村全体の経済水準を示すもの



第2次産業が56%、第3次産業が43%を占める産業構造

製造業の割合が高い

市町村内総生産の経済活動別構成比 （安八町）



出典：岐阜県統計課「令和4年度(2022年度)岐阜県の市町村民経済計算」

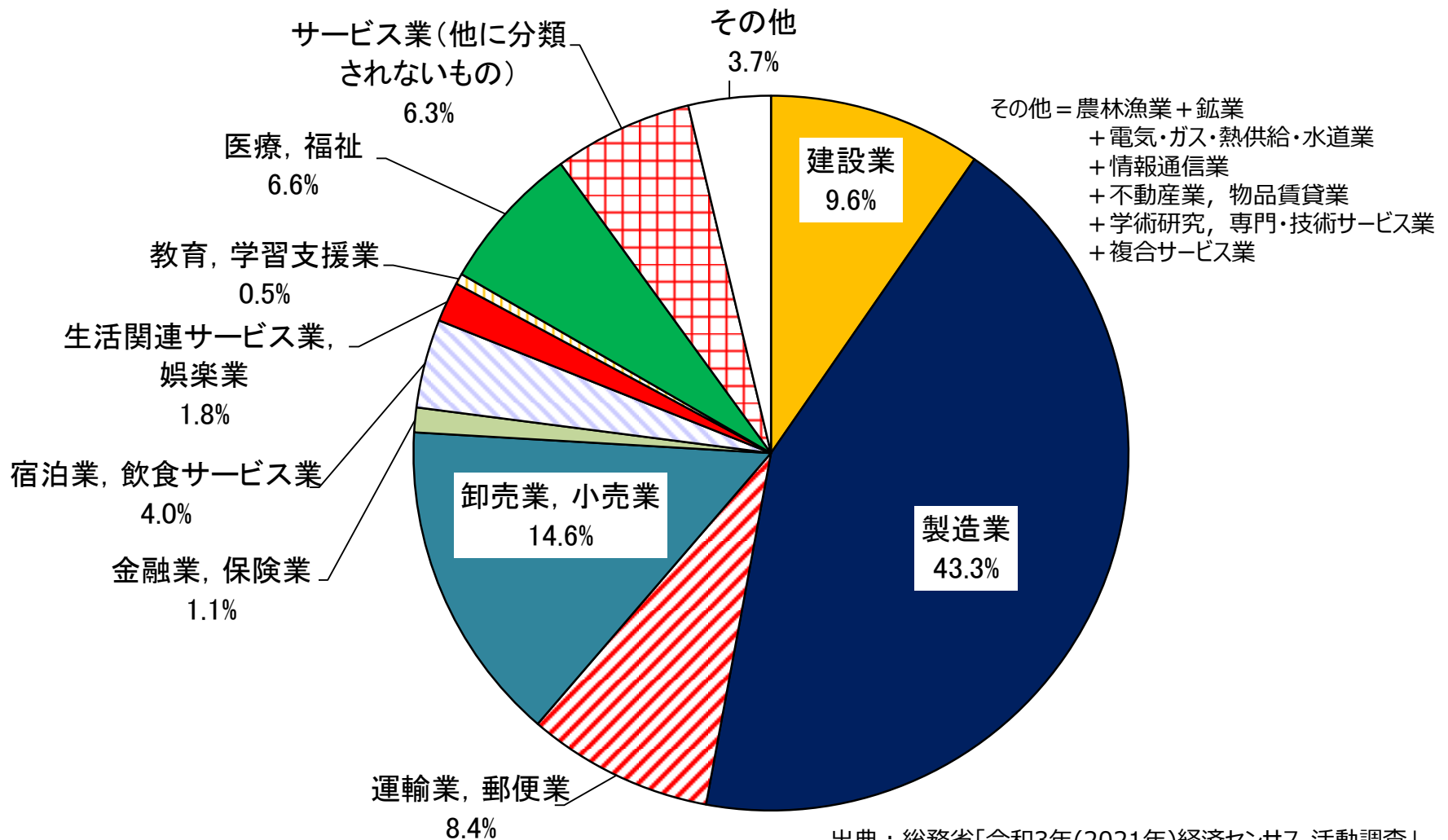
注1:「不動産業」には、持ち家の帰属家賃を含んでいる。

注2:「その他」は、宿泊・飲食サービス業、情報通信業、専門・科学技術、業務支援サービス業、公務、教育、その他のサービスの合計。

なお、輸入品に課される税・関税等も含めている。

産業別の従業者数は、製造業が43.3%と最も多く、 次いで卸売業、小売業が14.6%を占める

産業別従業員数の構成比(安八町 2021年)



出典：総務省「令和3年(2021年)経済センサス-活動調査」
注：事業内容等が不詳の事業所を除く。公務を除く。

産業別従業者でみると、全国と比べて、製造業、建設業、運輸業、郵便業の特化係数が高いことが特徴

産業別事業所数、従業者数（安八町 2021年）

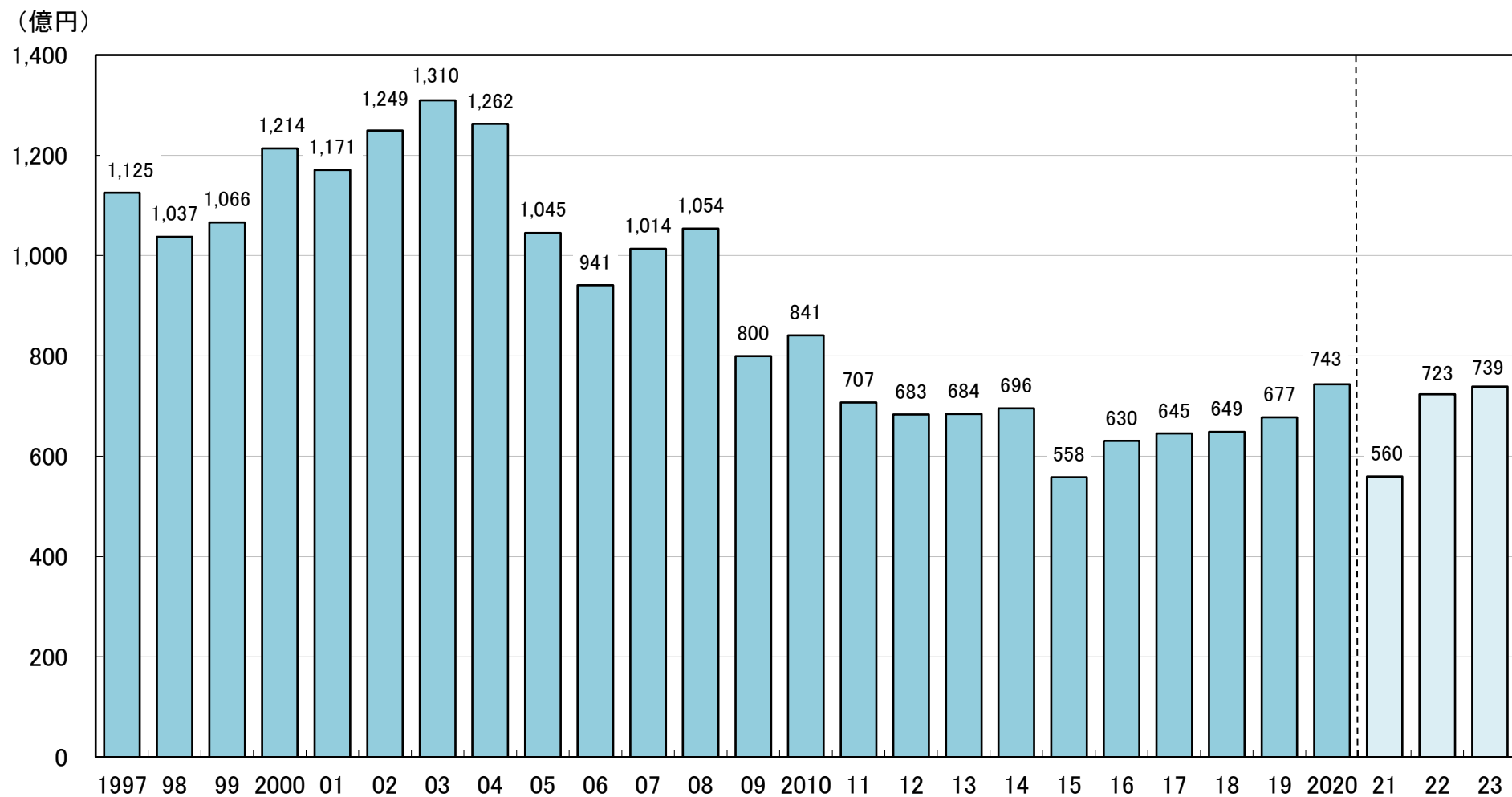
	事業所数	従業者数		産業別従業者数の 構成比による特化係数	
		(人)	構成比	全国=1.00	県=1.00
総数	463	5,188	100.0	1.00	1.00
農林漁業	4	29	0.6	0.71	0.52
鉱業	0	0	0.0	0.00	0.00
建設業	79	500	9.6	1.49	1.41
製造業	114	2,245	43.3	2.85	1.75
電気・ガス・熱供給・水道業	2	2	0.0	0.11	0.13
情報通信業	1	5	0.1	0.03	0.13
運輸業、郵便業	14	436	8.4	1.49	1.86
卸売業、小売業	84	758	14.6	0.73	0.76
金融業、保険業	6	58	1.1	0.43	0.49
不動産業、物品賃貸業	12	85	1.6	0.59	0.93
学術研究、専門・技術サービス業	8	41	0.8	0.22	0.35
宿泊業、飲食サービス業	40	208	4.0	0.50	0.49
生活関連サービス業、娯楽業	34	94	1.8	0.48	0.45
教育、学習支援業	5	25	0.5	0.14	0.18
医療、福祉	29	345	6.6	0.47	0.50
複合サービス事業	3	31	0.6	0.79	0.66
サービス業（他に分類されないもの）	28	326	6.3	0.70	0.87

出典：総務省「令和3年(2021年)経済センサス-活動調査」

注）事業内容等が不詳の事業所を除く。公務を除く。

2023年の製造品出荷額等は、739億円

製造業製造品出荷額等の推移（安八町）



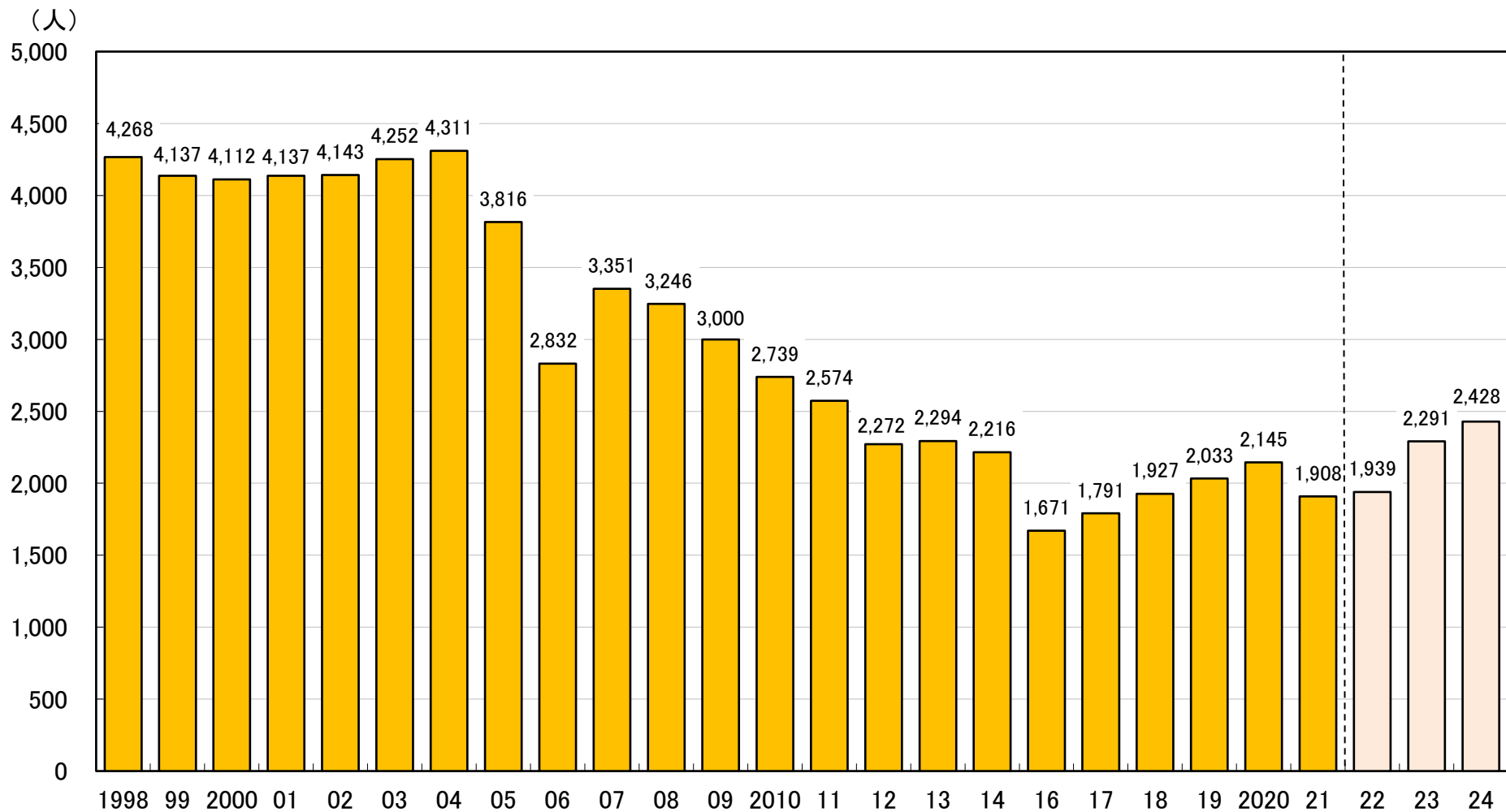
出典：総務省・経済産業省「経済構造実態調査 製造業事業所調査」（全事業所、個人経営を含まない）

1997年～2019年は経済産業省「工業統計」（従業者4人以上）、ただし2011年、2015年、2020年は総務省「経済センサス-活動調査」（従業者4人以上）

注：「経済構造実態調査 製造業事業所調査」と「工業統計」、「経済センサス-活動調査」は集計範囲等が異なるため単純比較できない。

製造業の従業者数は、2005年以降減少傾向

製造業従業者数の推移（安八町）



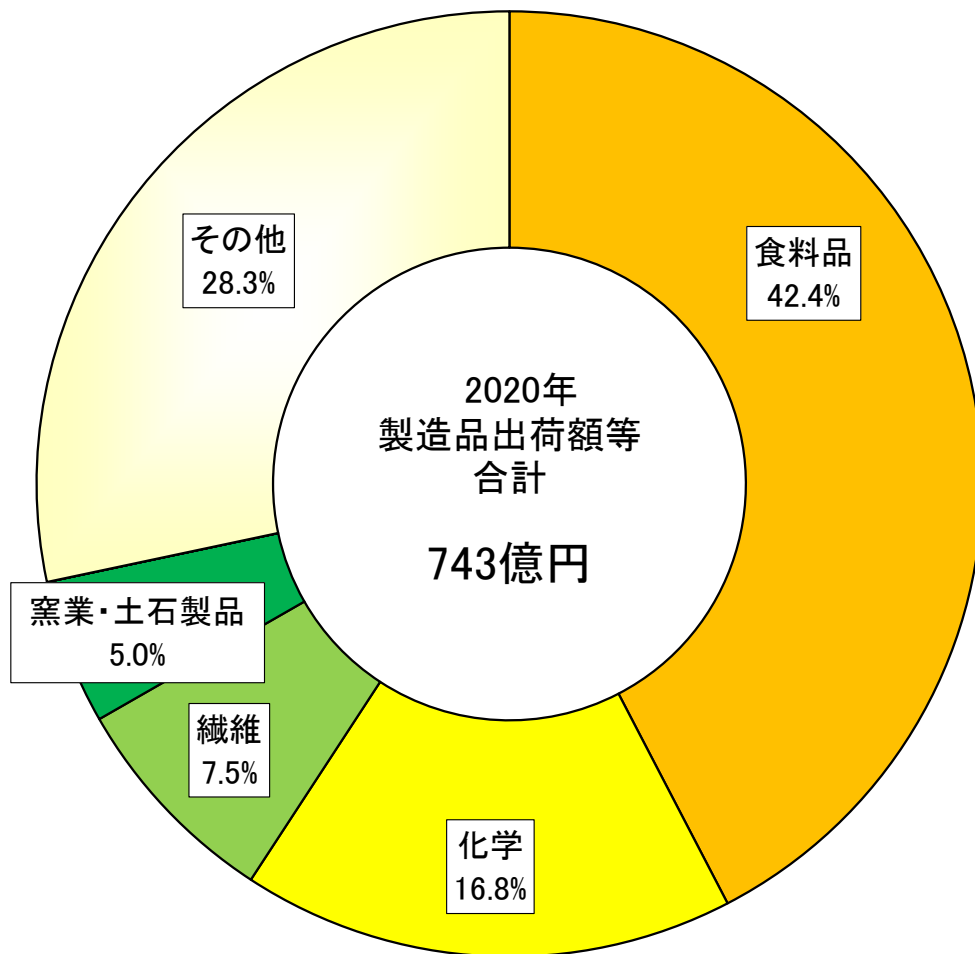
出典：総務省・経済産業省「経済構造実態調査 製造業事業所調査」(全事業所、個人経営を含まない)

1998年～2020年は経済産業省「工業統計」(従業者4人以上)、ただし2012年、2016年、2021年は総務省「経済センサス-活動調査」(従業者4人以上)

注：「経済構造実態調査 製造業事業所調査」と「工業統計」、「経済センサス-活動調査」は集計範囲等が異なるため単純比較できない。

食料品が42.4%と最も多く、次いで化学工業が16.8%を占める

製造品出荷額等の業種構成＜ 安八町 ＞



出典: 総務省「令和3年(2021年)経済センサス-活動調査」(従業者4人以上)

注1: 「一般機械」=はん用機械器具+生産用機械器具+業務用機械器具

注2: 「木材・家具等」=木材・木製品製造業(家具を除く)+家具・装備品製造業

注3: 事業所数が少ないため製造品出荷額が秘匿となっている業種は「その他」に含む。

また、「一般機械」、「木材・家具等」は、内訳の業種に秘匿がある場合は、その業種の製造品出荷額は合算していない。(「その他」に含む)

注4: 単位未満を四捨五入しているため、合計は100%とならない場合がある。